

# 青年期における親のモニタリングと親の知識

—研究動向と展望—

内海 緒香

## 【英文要約】

Parental monitoring, defined as “a set of correlated parenting behaviors involving attention to and tracking of the child’s whereabouts, activities, and adaptations (Dishion & McMahon, 1998, p. 61)”, is one of the robust protective factors against conduct problems in adolescence. Parental monitoring is generally operationalized as parental knowledge. The present article provides a review of empirical researches on parental monitoring conducted during the past few decades. The article examines the following areas: (a) early works and theoretical background, (b) issues of definition and measurement (c) related factors and outcomes of parental monitoring and knowledge, (d) recent research, and (e) future directions.

Key words: parenting, adolescent, parental monitoring, parental knowledge

## はじめに

養育概念の一つである、モニタリング<sup>1</sup> (parental monitoring) は、“子どもの居場所、活動や適応を追跡し注意を払うことを含む親の一連の養育行動” (Dishion & McMahon, 1998, p. 61) と定義され、主として、どれだけ子どもの日常生活を親が知っているかを意味内容とした親の知識 (parental knowledge; Crouter & Head, 2002) により測定されてきた。モニタリングは、欧米の社会化あるいは心理学の領域で盛んに研究されているにもかかわらず、本邦ではこれまで議論されることが少なかった。総合的学術機関向けデータベース Academic Search Premier による、1980年から2014年（7月31日）までの“parental monitoring”または“parental knowledge”をキーワードとした検索によれば、査読付き英語学術論文全1,077件のうち青年期の文献は753件と大半を占めており、青年期を対象としたモニタリング研究が圧倒的に多い。青年期の子どもは親と一緒に過ごす時間が少なくなり親との直接的関わりが学童期よりも減少する (Csikszentmihalyi & Larson, 1984)。心理的自律性の獲得や個性化が発達課題とされている青年期には、親が子どもの行動に対し直接介入する養育よりも少し離れたところで間接的に把握する行動のほうが望ましい (Dornbusch, 1989) といわれていることから、親のモニタリングはこの時期の親子関係の実態に即した養育概念といえよう。

本稿は、モニタリングに関する過去の代表的なレビュー論文 (Crouter & Head, 2002; Dishion &

McMahon, 1998) を発展させ、はじめに、非行矯正や社会化の研究領域においてモニタリング概念が使用されるようになった背景や初期の主要な研究について述べる。次に、モニタリング概念を巡る構成概念の妥当性や測定方法に関する議論について説明する。引き続き、この研究分野において重要視されてきた関連要因を概観するとともに近年の研究動向に触れ、最後に今後の課題について述べる。

## モニタリングの歴史的経緯と威圧的養育理論

モニタリングに関する研究の端緒は半世紀以上に遡る。古くより少年非行・矯正分野の研究対象とされ (Glueck & Glueck, 1962)、当初は狭義の概念として監督 (supervision) の用語が使われていた (Loeber & Dishion, 1983)。親のモニタリングが着目された理由は、非行少年の家庭を対象とした聞き取り調査を行ったところ、子どもの余暇活動や誰といつどこで遊んでいるかなど知識を持っていない母親が多かったからである (Hirschi, 1969; Patterson & Stouthamer-Loeber, 1984)。後続の研究において、親のモニタリングが極端に低い家族環境では、子どもに対する養育者の統制方法に一貫性が無く暴力や脅しが伴っていたことから、このような養育特徴は、後の非行や犯罪行動につながる有力な予測因子であると指摘された (Loeber & Dishion, 1983)。アメリカの小学生から高校生までの男子のいる家族を対象に 4 種類の家庭運営実践 (family-management practices: モニタリング, しつけ, 問題解決, 強化) と警察通報の有無および非行的生活スタイルとの関連を調べた実証研究では、モニタリングのみが非行深度の決定因となっており、非行傾向の高い青年を持つ家庭におけるモニタリングの欠如は、家庭運営の機能不全において中心的な役割を果たしていることが示された (Patterson & Stouthamer-Loeber, 1984)。

親のモニタリング不足と非行との関連に着目した Gerald R. Patterson グループは、一連のオレゴン青年研究 (Oregon Youth Study) の中で、社会的学習理論の立場から、暴力的で一貫性の無いしつけが後にモニタリング不足を招く養育パターンを威圧的養育モデル (coercion model; Patterson, 1982) と名付け、威圧的養育と子どもの反社会的行動、さらに、子どもの反社会的行動と親のモニタリング低下との間の循環的関連を検証した (e.g. Reid & Patterson, 1989; Patterson, Reid, & Dishion, 1992)。彼らの研究以前には、攻撃性の高い子どもは、平均的な子どもに比較し大人の制止を受け入れる割合が少なく、突発的で威圧性の高い親子間のやりとりが生じやすいことが指摘されていた (Reid, Taplin, & Lorber, 1981)。威圧的養育モデルの説明は以下の通りである。幼い子どもに対し効果的な介入レパートリーに乏しい親は、体罰や大声での叱責のような威圧的統制を試みるものの時として子どもの要求に屈するなど一貫性に欠けることが多い。幼少期から親の攻撃的対人スタイルを学習した子どもは、成長するに従い親に対して威圧的に振る舞うようになり親子関係の質は低下する。子どもの要求に屈するという親の撤退反応から強化を受けた子どもは、学校や学校以外の社会的場面においても威圧的行動を取りはじめる。子どもの反社会行動の抑制に効力感を失った親は、物理的にも心理的にも子どもと疎遠となり、子どもに対するモニタリングを行わなくなるのである。

威圧的養育理論は、その後、非行仲間の要因を加えた仲間媒介モデル (Patterson et al., 1992) とともに、カスケードモデル (Dodge, Greenberg, & Malon, 2008) に組み入れられた。このモデルでは、7 つの要因 (a) 生育初期の生活環境における逆境, b) 幼児期の暖かさの欠けた厳しく一貫性の無い養育, c) 社会的認知的分野における学校準備性の欠如, d) 早期の問題行動, e) 学校での社会的学業的失敗, f) 青年期のモニタリングの欠如, g) 非行仲間との交友) が、発達初期からカスケード状に一方向的に連続して互いに関連を持ちつつ進展することを仮定しており、初期の問題行動頻発が後の慢性的な暴

力への大きなリスク因となるプロセス（早期開始モデル；Moffitt, 1993）を説明している。さらにDodge et al. (2008) は発達精神病理学の視点を取り入れ、青年期後期の暴力を予測する、幼児期と青年期で発達の異なるモニタリングの低下パターンを同定している。モデル中の要因間の部分的な媒介や分岐点の存在は、後続要因に絞った介入を行うことで問題行動の進展を抑制できる可能性を示唆していると考えられる。

## モニタリングの構成概念とその測定に関する議論

親の養育態度や行動の測定には、従来から概念の操作的定義に関する数多くの問題が指摘されていた（Holden & Edwards, 1989）。養育概念の中でも統制の構成概念を巡る議論は養育に関心を払う研究者の間で現在に至るまで続いている（Grolnick & Pomerantz, 2009）が、モニタリングもその例外ではない。この問題に関する経緯を説明するにあたり、はじめに、モニタリングの測定に使用されてきた代表的な測定方法を紹介する、次に、モニタリングの測定尺度である親の知識が、先行研究の中でどのように扱われてきたか述べ、最後に、モニタリングや親の知識が行動統制の測定尺度として使用されてきたことに対するStattin & Kerr (2000; Kerr & Stattin, 2000) の議論について述べる。

モニタリングの測定は大別して、a) マルチメソッド、b) 電話面接法、c) 質問紙法の種類がある。Pattersonらによる一連の研究（e.g., Patterson & Dishion, 1985）は、モニタリング概念を測定するにあたり三つの尺度（面接による母子それぞれの報告、面接者による印象評定、および家庭への電話面接による評定）の合算を使用していた。電話面接法は、子どもを持つ家庭への電話面接を行い、子どもが報告した自らの活動内容と親が報告した子どもの活動内容との差得点を利用する方法である（Crouter, MacDermid, McHale, & Perry-Jenkins, 1990）。今日に至るまで研究の多くは、質問紙法によりモニタリングの測定を行っている。モニタリング項目は、親の厳しさ/監督尺度（Lamborn, Mounts, Steinberg, & Dornbusch, 1991）に由来し、代表的なモニタリング尺度は、親の知識、すなわち子どもの居場所や活動、金銭の使い方、友人を親がどれだけ知っているかについて問う5項目（Brown, Mounts, Lamborn, & Steinberg, 1993）である。この5項目の他、子どもの日常生活を細分化した9項目（Stattin & Kerr, 2000; Kerr & Stattin, 2000）、または短縮された3項目（Chassin, Pillow, Curran, Molina, & Barrera, 1993, Dick, Viken, Purcell, Kaprio, Pulkkinen, & Rose, 2007）で測定されることもある。

青年期の養育と子どもの適応を扱った先行研究において、親の知識はコントロール理論（Hirschi, 1969）を実証するための一尺度として（Aseltine, 1995, p. 107）、また別の研究では一般的な統制の測定尺度として使用されることもあった。例えば、“権威的養育（authoritative parenting）”や“権威主義的養育（authoritarian parenting）”をカテゴリー化するために用いられた統制尺度（Lamborn et al., 1991）や、二種類の統制（行動統制と心理的統制）の区別を強調した行動統制尺度（Barber, 1996）も子どもの活動や居場所に対する親の知識を問う項目を使用していた。したがって、子どもの問題行動を予測因子として重要性が繰り返し指摘されてきた行動統制の実質的内容は、直接子どもに働きかける、あるいは知識を得るための親の行動ではなく間接的な統制を意味するモニタリング、すなわち親の知識であった。

行動統制の伝統的定義は、子どもに対し社会的に適切な行動を取るよう促す、また子どもがそのような行動を取っているか監督するといった能動的な親の活動を指す（Barber, 1992）。一方、親の知識項目は、

親の知識状態を示しており必ずしも親の行動と同義ではない。そこで、Stattin & Kerr (2000; Kerr & Stattin, 2000) は、子どもの行動について知識を得ようとする親の行動と子どもの親に対する自己開示を親の知識の先行要因と仮定した分析を行い、親の行動よりも子どもの自己開示が親の知識の増減に寄与することを明らかにした。彼女らの研究結果は、親から子へという一方的関係性や親の主体性のみを強調した社会化研究における伝統的見方 (Bell, 1968) に疑問を投げかけ、親の養育が子どもの適応に影響を与えるという長年に渡って蓄積された結果を否定するものとの危惧 (Fletcher, Steinberg, & Williams-Wheeler, 2004) を生んだ。

しかし、モニタリング概念は行為者と被行為者間のコミュニケーション的側面を内包している (Crouter & Head, 2002)。良好な関係性を持つ親子では互いの情報交換が円滑に行われ、疎遠あるいは敵対的な関係にある親子の場合親は子どもからの情報を必然的に得にくくなるだろう。モニタリングの上手な親は、日常的に暖かい養育態度を示し子どもの自己開示を促すかもしれない。Stattin & Kerr (2000; Kerr & Stattin, 2000) における主張の真意は、親の影響力の有無を問うよりも、養育プロセスにおける子どもの能動的エージェント性、すなわち子ども側からの主体的な親への働きかけの存在を強調したものと考えられる。現在、モニタリングの測定尺度として、親の知識を中心とした項目を使用する研究 (e.g. Dick et al., 2007) と、モニタリングという包括的な概念の中で親の知識と実際の知識を引き出す行動とを明確に区別し別々の尺度を用いる研究 (e.g. Kerr & Stattin, 2000) の二つの方向性がみられる。

モニタリング概念の測定には、以上で取り上げた測定尺度の問題以外に測定対象の問題もある。青年期のモニタリングを扱った論文は、子ども報告のみが大半を占めているが、同じ家庭の親と子どもの自己報告は必ずしも一致しないことが指摘されている (Crouter & Head, 2002)。この問題に対し、親、子ども、第三者の報告を用いたトライアングレーションによるモニタリングの測定を勧める立場の研究者 (Racz & McMahon, 2011) と、子ども報告により測定されたモニタリングを“認知されたモニタリング (親の知識)” (Li, Feigelman, & Stanton, 2000; Soenens, Vansteenkiste, Luyckx, & Goossens, 2006) と命名して、親に帰属するものとして解釈するのではなく、子どもの主観的受け止め方をもとに解釈する研究者もいる。

## モニタリングと関連する要因

### 家族的要因

社会経済的地位 (SES) や家族構造などの家族的要因は、直接子どもの問題行動を引き起こす原因というよりも、インフォーマルな社会的統制すなわち養育の先行因であると結論づけられている (Sampson & Laub, 1994)。低い社会経済的階層に属する青年前期の男子を対象に行った縦断研究において、社会経済的地位はモニタリングの先行因となっていたものの非行の直接の原因とならなかった (Larzelere & Patterson, 1990)。また、一人親家庭および親との非同居といった家族構造は、まずモニタリングの欠如と結び付き、モニタリングの不足は高い薬物使用頻度に関連していた (Wagner, K. D., Ritt-Olson, A., Chou, C. P., Pokhrel, P., Duan, L., Baezconde-Garbanati, L., Soto, D. W., & Unger, J. B., 2010)。このような結果から、特殊な家庭環境下の子どもの問題行動リスクを減じるため、基本的な養育スキル改善に向けた介入や、親のモニタリングを容易にするような社会的資源投入の必要性が指摘されている (Wagner et al., 2010)。その他、親の仕事上のストレスも子どもに対する親のモニタリングを減じる要因である。仕事や家庭で多重役割を担うことから生じる心理的充実感の減少をネガティブ・スピルオー

バーと呼ぶ。共働き家庭の場合仕事上のストレスは子どもとの関わりが強い母親の養育に影響を及ぼすと考えられがちであるが、仕事から家庭へのネガティブ・スピルオーバーを調べたBumpus, Crouter, & McHale (2006) では、父親のスピルオーバーが低い父親のモニタリングと関連しており、母親側には影響がみられなかった。また、親の精神障害も子どもに対するモニタリングを弱める。例えば、母親の精神障害症状は低いモニタリングを媒介としてリスクを伴う子どもの性行動と関連していた (Hadley et al., 2011)。母親と父親の間に交差的な関係性を示す研究結果もある。母親のアルコール障害は、父親の低いモニタリングを媒介して、子どもの薬物使用や薬物を使用する友人とのつきあいと関連することが明らかになっている (Chassin et al. 1993)。このように、一方の親の精神的なストレスは、単独で、あるいは夫婦間で影響を与え合いながら、青年期の子どもの活動に親が積極的に関わる機会を減らし、子どもの日常についての知識の取得を妨げていると推測される。

### モニタリングレベルの性差と年齢差

子どもの性別によるモニタリングレベルの違いについて統一した見解はまだ示されていない。親は子どもの性別にかかわらず同じだけモニタリングしている結果 (e.g. Spera, 2006; Stattin & Kerr, 2000) と、親は女子の方をよくモニタリングしている結果 (e.g. Li et al., 2000; Soenens et al., 2006) とがある。親の性別に関して、一貫して父親より母親のほうが子どもの活動に対する知識量が多い (e.g. Waizenhofer, Buchanan, & Jackson-Newsom, 2004)。同じ家族内の出生順位や性別の違いを調べたBumpus, Crouter, & McHale (2001) では、全体的に、父親は息子について、母親は娘についてよくモニタリングしていた。親の性別、子どもの性別や出生順位には交互作用がみられ、母親は第一子より第二子の方をよくモニタリングし、父親は出生順位とは関連が無く一貫して娘より息子の方をよくモニタリングしていた。それでは、親のモニタリングの度合いは子どもが成長するにつれ低下していくのだろうか。アメリカのサンプルを用いた縦断研究では、思春期以降全体的にゆるやかに減少するという知見が多い (e.g. Laird, Pettit, Bates, & Dodge, 2003)。しかし、多層的な分析を行った場合、上昇・下降・一定と様々なタイプの変化の軌跡が同定され、それぞれ子どもの異なった適応に関連することがわかっている (Tobler & Komro, 2010)。したがって、モニタリングの発達の軌跡には子どもが置かれた文脈により様々なパターンが存在すると考えられる。

### 非行・反社会的行動・リスク行動

現在においてもモニタリングは青年期の反社会的行動と違法な薬物使用の二分野と特に関連が深い。養育と子どもの非行との関連を取り上げた最近のメタ分析では、モニタリングは複数の養育タイプの中でも説明率の高い防御要因とされている (Hoeve, Dubas, Eichelsheim, Van Der Laan, Smeenk, & Gerris, 2009)。子どもを取り巻く環境を重視する観点から、近隣の環境 (Osgood & Anderson, 2004)、仲間集団 (Brown et al., 1993)、非行仲間 (Laird, Criss, Pettit, Dodge, & Bates, 2008) のような家庭以外の文脈要因の影響をともに考慮した研究が行われている。臨床サンプルだけではなく一般サンプルを使用した研究においてもモニタリングと反社会的行動との関連が明らかになるにつれ、研究の関心は非行と関連性の高いリスク行動へと広がった。青年期の代表的なリスク行為は薬物使用と性行動である。主な薬物の種類として大麻 (Pedersen, Mastekaasa, & Wichstrøm, 2001) など違法薬物の他に、合法年齢未満のアルコール摂取 (Chassin et al., 1993) や喫煙 (Simons-Morton, 2002)、あるいはそれらの組み合わせ (Steinberg, Fletcher, & Darling, 1994) を対象とした研究があげられ、いずれにおいても薬物使用

に対するモニタリングの抑制的役割が示唆されている。薬物使用と同様に、早期の性交開始は意図されない妊娠や性感染症につながる可能性が高いことから、身体的健康および心理社会的発達に対するリスクとみなされている (Hofferth, 1987)。高いモニタリングは、良好な親子コミュニケーションと並び、十代の妊娠 (Crosby, DiClemente, Wingood, Harrington, Davies, Hook Iii, & Oh, 2002)、HIVおよび性感染症 (Voisin, DiClemente, Salazar, Crosby, & Yarber, 2006) に対する防御要因となっていたが、友人の性行動に関する認知が高くなるほど親からの影響は薄れていくため、養育者は早期から関心を払い子どもに接することが必要と指摘されている (Romer, Black, Ricardo, Feigelman, Kaljee, Galbraith, Nesbit, Hornik, & Stanton, 1994)。日本の高校生を対象とした調査では、男子の場合親が性行動に対して不賛成を表明することが、女子の場合は親のモニタリングが性行動の遅延に有効と示唆されている (Nagamatsu, Saito, & Sato, 2008)。

### 学業達成と自尊感情

学業達成を予測する変数としてモニタリングを取り上げた研究の対象は、青年期よりも学童期の親子が多い (e.g. Crouter et al., 1990)。青年期の親子を対象とした研究では、学業成績の予測にとどまらず、親の教育目標や子ども自身の動機づけといったより細分化された心的過程や文脈を問題にしている。例えば、学業分野における親の関与とモニタリングは、親が子どもとより多くの時間を分かち合い楽しむといった子ども中心の家庭文脈の下でより効果的であった (Spera, 2006)。他に、モニタリングと学業成績や自尊感情を、問題行動を直接予測する変数としてともに扱う研究もみられる。Parker & Benson (2004) では、モニタリング、親からのサポート、子どもの高い自尊心は、非行や薬物使用に対し独自の効果を持つ防御因子であることを明らかにした。モニタリングと適応との間には、不適応との関連性とは対照的に、高いモニタリングが子どもの低い成績と関連していた (Otto & Atkinson, 1997)、または身体的運動の活発さには子どもの自尊感情や家族の凝集性は関連したがモニタリングは関連しない (Ornelas, Perreira, & Ayala, 2007) など一貫した結果が出ていない。

## モニタリングに関する近年の研究動向

### 子どもの特性と環境の交互作用

発達精神病理学や行動遺伝学の研究者たちは、子どもの性格特性や遺伝子形質の発現に影響を与える環境としての親の養育に着目している。Neumann, Barker, Koot, & Maughan (2010) が、子どもの衝動性、モニタリング、反社会的行動間の相互的関連性を調べたところ、高い衝動性は低いモニタリングと高い反社会的行動の両方の先行因となっており、後にモニタリングと反社会的行動は互いに影響を与えあうという相乗的関連を示していた。この関係性は非行少年を対象とした威圧的養育モデル (Patterson, 1982) と一部合致する。行動遺伝学では遺伝と環境の交互作用を重視する立場から、養育や仲間関係をリスク行動発現の調整要因と仮定している。Dick et al. (2007) によれば、青年期の喫煙は、モニタリングレベルが高い場合、加算的遺伝よりも共有環境の影響が強かったものの、低い場合では加算的遺伝の影響が共有環境の影響を大きく上回っていた。この結果はモニタリングの低い環境ではモニタリングが高い環境に比べ喫煙に関する遺伝の効果が表れやすい傾向にあることを示唆している。興味深いことに、飲酒リスクの遺伝的影響は、飲酒仲間がいるほど高くなり、同じようなパターンは喫煙と親と過ごす時間の長さとの間にもみられた。喫煙習慣を持つ親と一緒にいることはモデリング効果から遺伝のリスクを高め、喫煙に

対する統制を減じてしまうと考えられる。

### 疾病やメディア使用に対するモニタリング

モニタリングは、非行や薬物使用といった伝統的領域以外に、医療やインターネット環境など親の関与が必要となる研究領域においても疾患の改善や子どものインターネット使用の重要な予測因子とされている。身体的な慢性疾患（I型糖尿病）を持つ子どもに対する家庭でのモニタリングを扱う研究では、自由時間の過ごし方や外出先といった一般的な親の知識ではなく、家庭における疾病コントロールに関連した操作的定義が行われている（Ellis, Podolski, Moltz, Frey, Naar-King, & Wang, 2007）。プライバシーの高い青年期のインターネット利用は親による直接統制が難しい。モニタリング自体が間接的統制といった意味を持つことから、インターネット研究における親のモニタリングは、フィルタリングソフトの導入、インターネット利用へのルール決めなど比較的広義の意味で用いられている（Nakayama, 2011; Wang, Bianchi, & Raley, 2005; 内海, 2010a）。さらに、青年期の日常活動を細分化し、子どもの健康行動、学校場面での活動、メディア活動など、文脈を限定した場面におけるモニタリングの概念化にも関心が寄せられている（Cottrell, Branstetter, Cottrell, Harris, Rishel, & Stanton, 2007）。

### 子どもの活動の情報源

モニタリングの概念定義を巡り、子どもの開示状況や子どもの行動を知るための情報源への関心が高まった。青年期の子どもは必ずしも自分の情報を全て親に伝えているわけではなく、知られたくないことは話さない、あるいは意図的に嘘をつく場合もある（Darling, Cumsille, Caldwell, & Dowdy, 2006）。子どもによる情報マネジメントは、自己開示と秘匿という2つの側面を持ち、親子関係の文脈性や子どもの適応不適応に異なった関連を持つことがわかっている（Keijsers & Laird, 2010）。また、親にとって子どもの自己開示以外にも情報を得る方法はある。Crouter, Bumpus, Davis, & McHale (2005) は、子どもの活動に対する主たる情報源として、子どもからの自己開示、配偶者、他者（教師や子どもの友人の親）の3類型を見出し、父親と母親とで異なった情報入手パターンがあることを明らかにしている。

### 臨床的介入

海外では、問題を抱えた家庭に対し親のモニタリングへの動機づけや技術の向上、およびモニタリングを支える親子コミュニケーションの質の改善に焦点を当てた臨床的介入が行われ成果を上げている（Dishion, Nelson, & Kavanagh, 2003; Li et al., 2002; Patterson, Forgatch, & DeGarmo, 2010）。例えば、遺伝的にハイリスクな環境にある家庭への認知行動療法による親のモニタリングスキルを向上させる介入には、対照群に比べモニタリングの低下を抑制し子どもの薬物使用リスクを予防する効果が確認されている（Dishion et al., 2003）。モニタリングに焦点を当てた介入は、生態学的な観点から青年期の子どもの行動様式に適合しており、日本においても応用に向けた研究が進められるべきと考えられる。

### 今後の研究課題

以上の知見を踏まえ、今後の研究課題を4点取り上げる。第一には、モニタリングの測定に関する問題である。操作的定義と測定方法は研究者間でまだ統一されていないわけではない。先に親の知識とモニタリングという名称の混在に関する問題を指摘したが、別の問題として、項目内容と変数名が対応していない

研究も数多くみられる。様々な名称の用語や測定尺度の並立は研究知見を総括する際の妨げとなるため研究者間の用語の摺合せと適切な測定尺度の一貫した使用が望まれる。第二には、親子間の相互作用のプロセスについてである。矯正領域では威圧的養育モデルのように養育と子どもの非行との間の相互的相乗作用が指摘されていた (Jang & Smith, 1997)。一般的な親子間の日常的文脈でのやりとりについては、行動理論をベースとした Hayes, Hudson, & Matthews (2003) のモニタリング相互作用モデルがあげられる。しかし、このモデルを実証した研究はまだ十分行われていない。モニタリングに関連した不適応的適応的行動の持続やその理由を探るため、実験や観察で親子間の行動プロセスのメカニズムをマイクロレベルで調べる研究が必要と考えられる。

第三にモニタリングの発達についてである。モニタリングは、乳幼児期から連続性を持ち比較的長期間にわたる親の養育行動 (Dishion & McMahon, 1998) と指摘されている。本邦の大学生の回顧的報告を用いた研究では、幼年期から青年期後期までモニタリングと類似した養育形態が認められている (内海, 2010b)。しかし、研究対象のほとんどは青年期の子ども中心であり発達早期からの連続性に関する検証が行われていない。子どもの発達とともに親のモニタリング行動の内容も対象分野も変化していくと推測される。今後はマクロな視点から、親の行動がいつどのように変化し、同時に子どもの行動がどのように変化するか調べる縦断的研究が必要と考えられる。最後に、モニタリングの文化差についてである。これまで非行や薬物使用のような外在化問題とモニタリングとの関連の方向性やその効果には、文化による違いがあまりみられない (e.g. Caldwell, Beutler, An Ross, & Clayton Silver, 2006) と言われてきた。近年モニタリングを含めた親の養育と子どもの行動との関係性 (Vieno, Nation, Pastore, & Santinello, 2009) や、モニタリングプロセスにおける関連要因の重要性 (Venkatraman, Dishion, Kiesner, & Poulin, 2009) について文化や人種による差異が認められるようになってきた。我が国における家族に対する臨床的介入を考えるうえで、このような文化的差異やその背後にあると仮定される親子の信念価値観などを調べることは必要と考えられる。

本研究では、社会化領域における青年期の養育のひとつモニタリングを取り上げ、その歴史と現在に至るまでの研究成果および様々な議論について概観してきた。Racz & McMahon (2011) は、モニタリングと子どもの問題行動との関連を扱ったこの10年間の研究を振り返り、少なからぬ問題点が残っているとしながらも解明されていない点が多いほど数多くの研究者の関心を集め学問的広がりが期待されると述べている。モニタリングは、子どもの活動の把握といった狭義の養育行動だけではなく、親の関与や環境の構造化などより幅広い養育行動を含む広義の概念 (Dishion & McMahon, 1998) である。モニタリングに関連する日常的な親子間のやりとりの過程や文脈をさらに明らかにし、子どもの問題行動や適応に関連する機序を調べることはこの研究分野の発展に貢献すると考えられる。

#### 注

- 1 “モニタリング” は、認知心理学において目標志向的行動を行う際の自己制御活動、すなわちメタ認知の意味で用いられるが、本稿では社会化研究における養育タイプとしてのモニタリングを指すものとする。



引用文献

- Aseltine, R. H., Jr. (1995). A reconsideration of parental and peer influences on adolescent deviance. *Journal of Health and Social Behavior*, *36*, 103-121.
- Barber, B. K. (1992). Family, personality, and adolescent problem behaviors. *Journal of Marriage and the Family*, *54*, 69-79.
- Barber, B. K. (1996). Parental psychological control: Revisiting a neglected construct. *Child Development*, *67*, 3296-3319.
- Bell, R. Q. (1968). A reinterpretation of the direction of effects in studies of socialization. *Psychological Review*, *75*, 81-95.
- Brown, B. B., Mounts, N., Lamborn, S. D., & Steinberg, L. (1993). Parenting practices and peer group affiliation in adolescence. *Child Development*, *64*, 467-482.
- Bumpus, M. F., Crouter, A. C., & McHale, S. M. (2001). Parental autonomy granting during adolescence: Exploring gender differences in context. *Developmental Psychology*, *37*, 163-173.
- Bumpus, M. F., Crouter, A. C., & McHale, S. M. (2006). Linkages between negative work-to-family spillover and mothers' and fathers' knowledge of their young adolescents' daily lives. *Journal of Early Adolescence*, *26*, 36-59.
- Caldwell, R. M., Beutler, L. E., An Ross, S., & Clayton Silver, N. (2006). Brief report: An examination of the relationships between parental monitoring, self-esteem and delinquency among mexican american male adolescents. *Journal of Adolescence*, *29*, 459-464.
- Chassin, L., Pillow, D. R., Curran, P. J., Molina, B. S. G., & Barrera, J. M. (1993). Relation of parental alcoholism to early adolescent substance use: A test of three mediating mechanisms. *Journal of Abnormal Psychology*, *102*, 3-19.
- Cottrell, S. A., Branstetter, S., Cottrell, L., Harris, C. V., Rishel, C., & Stanton, B. F. (2007). Development and validation of a parental monitoring instrument: Measuring how parents monitor adolescents' activities and risk behaviors. *The Family Journal: Counseling and Therapy for Couples and Families*, *15*, 328-335.
- Crosby, R. A., DiClemente, R. J., Wingood, G. M., Harrington, K., Davies, S., Hook iii, E. W., & Oh, M. K. (2002). Low parental monitoring predicts subsequent pregnancy among African-American adolescent females. *Journal of Pediatric and Adolescent Gynecology*, *15*, 43-46.
- Crouter, A. C., Bumpus, M. F., Davis, K. D., & McHale, S. M. (2005). How do parents learn about adolescents' experiences? Implications for parental knowledge and adolescent risky behavior. *Child Development*, *76*, 869-882.
- Crouter, A. C., & Head, M. R. (2002). Parental monitoring and knowledge of children *Handbook of parenting: Vol. 3: Being and becoming a parent (2nd ed.)*. (pp. 461-483): Mahwah, NJ, US: Lawrence Erlbaum Associates Publishers.
- Crouter, A. C., MacDermid, S. M., McHale, S. M., & Perry-Jenkins, M. (1990). Parental monitoring and perceptions of children's school performance and conduct in dual- and single-earner families. *Developmental Psychology*, *26*, 649-657.
- Csikszentmihalyi, M., & Larson, R. (1984). *Being adolescent: Conflict and growth in the teenage years*. New York: Basic Books.
- Darling, N., Cumsille, P., Caldwell, L. L., & Dowdy, B. (2006). Predictors of adolescents' disclosure to parents and perceived parental knowledge: Between- and within-person differences. *Journal of Youth and Adolescence*, *35*, 659-670.

- Dick, D. M., Viken, R., Purcell, S., Kaprio, J., Pulkkinen, L., & Rose, R. J. (2007). Parental monitoring moderates the importance of genetic and environmental influences on adolescent smoking. *Journal of Abnormal Psychology, 116*, 213-218.
- Dishion, T. J., & McMahon, R. J. (1998). Parental monitoring and the prevention of child and adolescent problem behavior: A conceptual and empirical formulation. *Clinical Child and Family Psychology Review, 1*, 61-75.
- Dishion, T. J., Nelson, S. E., & Kavanagh, K. (2003). The family check-up with high-risk young adolescents: Preventing early-onset substance use by parent monitoring. *Behavior Therapy, 34*, 553-571.
- Dodge, K. A., Greenberg, M. T., & Malone, P. S. (2008). Testing an idealized dynamic cascade model of the development of serious violence in adolescence. *Child Development, 79*, 1907-1927.
- Dornbusch, S. M. (1989). The sociology of adolescence. *Annual Review of Sociology, 15*, 233-259.
- Ellis, D. A., Podolski, C., Moltz, K., Frey, M., Naar-King, S., & Wang, B. (2007). The role of parental monitoring in adolescent health outcomes: Impact on regimen adherence in youth with type 1 diabetes. *Journal of Pediatric Psychology, 32*, 907-917.
- Fletcher, A. C., Steinberg, L., & Williams-Wheeler, M. (2004). Parental influences on adolescent problem behavior: Revisiting Stattin and Kerr. *Child Development, 75*, 781-796.
- Glueck, S., & Glueck, E. (1962). *Family environment and delinquency*. Boston: Houghton Mifflin.
- Grolnick, W. S., & Pomerantz, E. M. (2009). Issues and challenges in studying parental control: Toward a new conceptualization. *Child Development Perspectives, 3*, 165-170.
- Hadley, W., Hunter, H. L., Tolou-Shams, M., Lescano, C., Thompson, A., Donenberg, G., DiClemente, R., & Brown, L. K. (2011). Monitoring challenges: A closer look at parental monitoring, maternal psychopathology, and adolescent sexual risk. *Journal of Family Psychology, 25*, 319-323.
- Hayes, L., Hudson, A., & Matthews, J. (2003). Parental monitoring: A process model of parent-adolescent interaction. *Behaviour Change, 20*, 13-24.
- Hirschi, T. (1969). *Causes of delinquency*. Berkeley, CA: University of California Press.
- Hoeve, M., Dubas, J. S., Eichelsheim, V. I., Van Der Laan, P. H., Smeenk, W., & Gerris, J. R. M. (2009). The relationship between parenting and delinquency: A meta-analysis. *Journal of Abnormal Child Psychology, 37*, 749-775.
- Hofferth, S. L. (1987). Influences on early sexual and fertility behavior. In S. L. Hofferth & C. D. Hayes (Eds.), *Risking the future: Adolescent sexuality, pregnancy, and childbearing* (Vol. 2, pp. 7-35). Washington DC: National Academy Press.
- Holden, G. W., & Edwards, L. A. (1989). Parental attitudes toward child rearing: Instruments, issues, and implications. *Psychological Bulletin, 106*, 29-58.
- Jang, S. J., & Smith, C. A. (1997). A test of reciprocal causal relationships among parental supervision, affective ties, and delinquency. *Journal of Research in Crime and Delinquency, 34*, 307-336.
- Keijsers, L., & Laird, R. D. (2010). Introduction to special issue. Careful conversations: Adolescents managing their parents' access to information. *Journal of Adolescence, 33*, 255-259.
- Kerr, M., & Stattin, H. (2000). What parents know, how they know it, and several forms of adolescent adjustment: Further support for a reinterpretation of monitoring. *Developmental Psychology, 36*, 366-380.
- Laird, R. D., Criss, M. M., Pettit, G. S., Dodge, K. A., & Bates, J. E. (2008). Parents' monitoring knowledge attenuates the link between antisocial friends and adolescent delinquent behavior. *Journal of Abnormal Child Psychology, 36*, 299-310.
- Laird, R. D., Pettit, G. S., Bates, J. E., & Dodge, K. A. (2003). Parents' monitoring-relevant knowledge

- and adolescents' delinquent behavior: Evidence of correlated developmental changes and reciprocal influences. *Child Development*, *74*, 752-768.
- Lamborn, S. D., Mounts, N. S., Steinberg, L., & Dornbusch, S. M. (1991). Patterns of competence and adjustment among adolescents from authoritative, authoritarian, indulgent, and neglectful families. *Child Development*, *62*, 1049-1065.
- Larzelere, R. E., & Patterson, G. R. (1990). Parental management: Mediator of the effect of socioeconomic status on early delinquency. *Criminology*, *28*, 301-324.
- Li, X., Feigelman, S., & Stanton, B. (2000). Perceived parental monitoring and health risk behaviors among urban low-income african-american children and adolescents. *Journal of Adolescent Health*, *27*, 43-48.
- Loeber, R., & Dishion, T. J. (1983). Early predictors of male delinquency: A review. *Psychological Bulletin*, *94*, 68-99.
- Moffitt, T. E. (1993). Adolescence-limited and life-course-persistent antisocial behavior: A developmental taxonomy. *Psychological Review*, *100*, 674-701.
- Nagamatsu, M., Saito, H., & Sato, T. (2008). Factors associated with gender differences in parent-adolescent relationships that delay first intercourse in Japan. *Journal of School Health*, *78*, 601-606.
- Nakayama, M. (2011). Parenting style and parental monitoring with information communication technology: A study on Japanese junior high school students and their parents. *Computers in Human Behavior*, *27*, 1800-1805.
- Neumann, A., Barker, E. D., Koot, H. M., & Maughan, B. (2010). The role of contextual risk, impulsivity, and parental knowledge in the development of adolescent antisocial behavior. *Journal of Abnormal Psychology*, *119*, 534-545.
- Ornelas, I., Perreira, K., & Ayala, G. (2007). Parental influences on adolescent physical activity: A longitudinal study. *International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity*, *4*, 1-10.
- Osgood, D. W., & Anderson, A. L. (2004). Unstructured socializing and rates of delinquency. *Criminology*, *42*, 519-549.
- Otto, L. B., & Atkinson, M. P. (1997). Parental involvement and adolescent development. *Journal of Adolescent Research*, *12*, 68-89.
- Parker, J. S., & Benson, M. J. (2004). Parent-adolescent relations and adolescent functioning: Self-esteem, substance abuse, and delinquency. *Adolescence*, *39*, 519-530.
- Patterson, G. R. (1982). *Coercive family process*. Eugene, OR: Castalia Publishing Company.
- Patterson, G. R., & Dishion, T. J. (1985). Contributions of families and peers to delinquency. *Criminology*, *23*, 63-79.
- Patterson, G. R., Forgatch, M. S., & DeGarmo, D. S. (2010). Cascading effects following intervention. *Development and Psychopathology*, *22*, 949-970.
- Patterson, G. R., Reid, J. B., & Dishion, T. J. (1992). *Antisocial boys*: Castalia Pub Co.
- Patterson, G. R., & Stouthamer-Loeber, M. (1984). The correlation of family management practices and delinquency. *Child Development*, *55*, 1299-1307.
- Pedersen, W., Mastekaasa, A., & Wichstrøm, L. (2001). Conduct problems and early cannabis initiation: A longitudinal study of gender differences. *Addiction*, *96*, 415-431.
- Racz, S., & McMahon, R. (2011). The relationship between parental knowledge and monitoring and child and adolescent conduct problems: A 10-year update. *Clinical Child and Family Psychology Review*, *14*, 377-398.
- Reid, J. B., & Patterson, G. R. (1989). The development of antisocial behaviour patterns in childhood and adolescence. *European Journal of Personality*, *3*, 107-119.

- Reid, J. B., Taplin, P. S., & Lorber, R. (1981). A social interactional approach to the treatment of abusive families. In R. Stuart (Ed.), *Social learning approaches to prediction, management, and treatment* (pp. 83-101). New York: Brunner/Mazel.
- Romer, D., Black, M., Ricardo, I., Feigelman, S., Kaljee, L., Galbraith, J., Nesbit, R., Hornik, R. C., & Stanton, B. (1994). Social influences on the sexual behavior of youth at risk for hiv exposure. *American Journal of Public Health, 84*, 977-985.
- Sampson, R. J., & Laub, J. H. (1994). Urban poverty and the family context of delinquency: A new look at structure and process in a classic study. *Child Development, 65*, 523-540.
- Simons-Morton, B. G. (2002). Prospective analysis of peer and parent influences on smoking initiation among early adolescents. *Prevention Science, 3*, 275-283.
- Soenens, B., Vansteenkiste, M., Luyckx, K., & Goossens, L. (2006). Parenting and adolescent problem behavior: An integrated model with adolescent self-disclosure and perceived parental knowledge as intervening variables. *Developmental Psychology, 42*, 305-318.
- Spera, C. (2006). Adolescents' perceptions of parental goals, practices, and styles in relation to their motivation and achievement. *Journal of Early Adolescence, 26*, 456-490.
- Stattin, H., & Kerr, M. (2000). Parental monitoring: A reinterpretation. *Child Development, 71*, 1072-1085.
- Steinberg, L., Fletcher, A., & Darling, N. (1994). Parental monitoring and peer influences on adolescent substance use. *Pediatrics, 93*, 1060-1064.
- Tobler, A. L., & Komro, K. A. (2010). Trajectories of parental monitoring and communication and effects on drug use among urban young adolescents. *Journal of Adolescent Health, 46*, 560-568.
- 内海しよか (2010a). 中学生のネットいじめ, いじめられ体験 : 親の統制に対する子どもの認知, および関係性攻撃との関連. *教育心理学研究, 58*, 12-22.
- 内海緒香 (2010b). 養育における統制実践認知: 女子大学生の回顧報告を用いた探索的検討. *人間文化創成科学論叢, 13*, 199-207.
- Venkatraman, S., Dishion, T. J., Kiesner, J., & Poulin, F. (2009). Cross-cultural analysis of parental monitoring and adolescent problem behavior: Theoretical challenges of model replication when east meets west. In V. Guilamo-Ramos, J. Jaccard & P. Dittus (Eds.), *Parental monitoring of adolescents* (pp. 90-123). New York: Columbia University Press.
- Vieno, A., Nation, M., Pastore, M., & Santinello, M. (2009). Parenting and antisocial behavior: A model of the relationship between adolescent self-disclosure, parental closeness, parental control, and adolescent antisocial behavior. *Developmental Psychology, 45*, 1509-1519.
- Voisin, D. R., DiClemente, R. J., Salazar, L. F., Crosby, R. A., & Yarber, W. L. (2006). Ecological factors associated with STD risk behaviors among detained female adolescents. *Social Work, 51*, 71-79.
- Wagner, K. D., Ritt-Olson, A., Chou, C. P., Pokhrel, P., Duan, L., Baezconde-Garbanati, L., Soto, D. W., & Unger, J. B. (2010). Associations between family structure, family functioning, and substance use among Hispanic/Latino adolescents. *Psychology of Addictive Behaviors, 24*, 98-108.
- Waizenhofer, R. N., Buchanan, C. M., & Jackson-Newsom, J. (2004). Mothers' and fathers' knowledge of adolescents' daily activities: Its sources and its links with adolescent adjustment. *Journal of Family Psychology, 18*, 348-360.
- Wang, R., Bianchi, S. M., & Raley, S. B. (2005). Teenagers' Internet use and family rules: A research note. *Journal of Marriage and Family, 67*, 1249-1258.